

応援プラットフォーム協働事業 実施成果報告書

(区分) イベント名	<p>該当に○をする (ちーたひ)・ちーびずマルシェ・女子のイチオシカフェ・その他) 女子力UP! 聖護院八ッ橋総本店 nikiniki 季節の生菓子手づくり体験 長い歴史と伝統の地域 聖護院を歩く</p>
実施日	平成 26年 6月 29日
参加状況	<p>地域のガイド・対応者(名前) 鈴鹿可奈子さん・木全正則さん(株聖護院八ッ橋総本店) 京都ちーびず実施団体 株式会社カスターネット</p>  <p>イベント参加者 合計 23名 内訳 (参加者 12名、もてなし側 7名、スタッフ 4名)</p>
全体の評価 (箇条書きで1～2行ずつ)	<p>(事業目的達成状況、応援隊の登録状況による成果、課題、今後に向けて等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業として日々大切にしている「味への伝統」「人・地元を大切に」の話や鈴鹿さんの八ッ橋に対する想いまたその人柄にふれられた参加者。また食べやすい味に感激している参加者。多くの参加者は聖護院八ッ橋総本店のファンになられた様子が見られ企業を応援するという部分では目標は得られたと思っています。 2. ワークショップでは参加者と従業員の方々とのふれあいが見受けられたことは、今後事業を進めていく上での大きな成果があった。それは、今まで参加者を中心に考えて企画していたが、もう一つその企業の従業員の気づきにもなる企画をプラスすることで企業のモチベーションが上がるのではないかと期待がした。

「体験・体感・全
員発言交流会」
での
ポイント
意見交換の内容

※複数のときは、用紙を追加してください。(体験・体感・交流会ごとに記載)

① ポイント (特徴、所感含む)

1. 聖護院八ッ橋総本店の営業活動だけではなく、地域とのつながり、地域づくりの貢献活動などもアピールできた。具体例：障がい者雇用・地域幼稚園への館の提供など
2. 八ッ橋と生八ッ橋の違いや、カラフルな色合いの nikiniki など楽しみながら学んで帰って頂いた
3. 参加者と従業員の方々が交流でき、一緒になって楽しく学べる場となった。

② 地域のおもてなし側の意見、気づきなど

ワークショップのご指導を製造部の4名の方々からは普段は工場内にこもり作業をしているが、今回の様なイベントで直にお客さまと交流でき意見など交換し合い、普段の職務のいい刺激になった。また、参加者さまの作る nikiniki にも触発されるものがあった。などの意見がありました。

③ 参加者側の応援意見など 以下抜粋

- ・八ッ橋の歴史や聖護院地域との関わり、地域貢献など具体的な話を聞かせて頂き勉強になった。
- ・ワークショップが本当に楽しかった、鈴鹿専務のお話が直に聞けてよかった。
- ・会社の理念・指針など大変勉強になり、自分の心の中でいい影響を受けた。
- ・ワークショップ体験に感激・食べるのがもったいなかった、シリーズ化希望。
- ・自分の知っている八ッ橋のイメージが大きく変わった。
- ・鈴鹿専務の伝統にまつわるお話がとても素晴らしかった。

